セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDTWVP（セゾンインバータ）　401～1601

PJB012D215

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。
ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。

<お願い事項>
○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

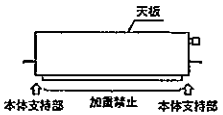
工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⚠注意

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
▶据付けに不備があると振動運転音増大の原因になります。
▶ユニットは、据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
▶解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット天板を下（梱包時の向き）にして置いてください。
▶やむをえずユニットを逆向きに置く場合は、右記の本体支持部以外に荷重が加わらないように注意してください。（中央部に荷重を加えるとエアフィルタ等を破損する恐れがあります。）
▶リフタを使用する場合は、ユニットを本体支持部（右図参照）で支えるように置き板（平板）等を準備してください。

○溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は、十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。



①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

〈付属品〉（ユニット内に付属しております。フィルターを外し取り出してください。）

フレアナット部断熱用

1	パイプカバー	1個	ガス管用
2	パイプカバー	1個	液管用
3	バンド	4個	パイプカバー用

本体吊り込み用

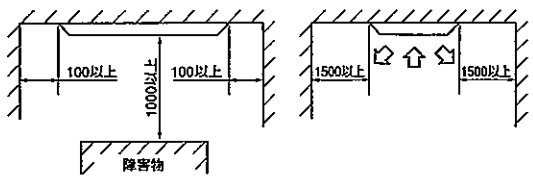
1	平座金（M10）	4個	ユニット吊り下げ用
2	型紙	1個	
3	ボルト	4個	型紙取付用

ドレン配管用

1	パイプカバー	2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース	1個	
3	ホースクランプ	1個	ドレンホース用

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



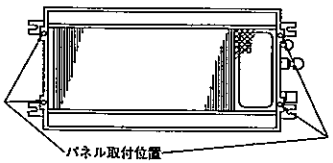
1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
●冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
●室外への配管、配線のしやすい所。
●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
●直射日光の当たらない所。
●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。
（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。
そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）
2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

③吊り込み

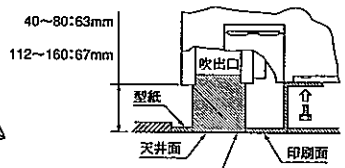
○吊りボルトは、M10またはW3/8を4本使用し、1本当り50kgfの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
吊りボルト長さは、天井面より95mm程度としてください。

A.天井がある場合

1.据付場所に天井開口寸法の穴をあけてください。
2.所定の位置に吊りボルト（現地手配）を設置してください。
（※吊りボルトピッチ中心はパネル中心からずれていますので、ご注意ください。）
3.ユニット吊り込み後、付属の型紙をボルト（4個）でパネル取付け部に取付け、下記方法で高さ調整してください。
4.水準器、または透明ホースに水を入れたものを使用してユニットの水平度を確認してください。
水平度がでていないと水漏れ、フロートスイッチの誤動作等の原因になります。
5.上記確認後、ユニットを固定してください。



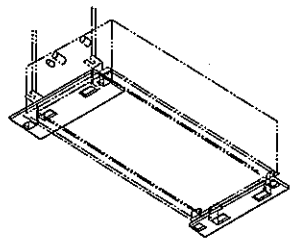
〈パネル取付位置〉



型紙下面と天井下面が合うように本体の位置を調整してください。

B.天井後貼りの場合

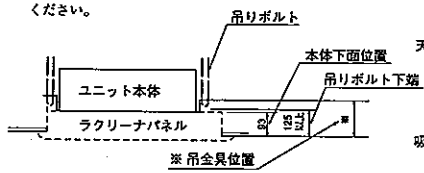
1.上記A-2～4により、ユニットを据え付け、型紙を取付けてください。
2.天井施工時に型紙外周を参考に天井開口をあけてください。
3.据付高さと水平度を確認後、ユニットを固定してください。


〈型紙取付状態〉

お願い 吊りボルトが1～3mを超える場合は、M10の吊りボルトを使用し、かつ、吊りボルトに筋交い等を行い、補強をしてください。

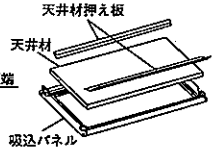
ラクリーナパネル（PSL）天井材はめ込パネル（PSB）の場合

▶標準パネル時よりも30mm高い位置にユニット本体を据付けてください。



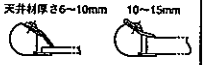
ハイパーインバータシリーズ	40～63	71～160
標準シリーズ	40～80	112～160
※	150	150

天井材はめ込パネルの場合（PSB）の場合



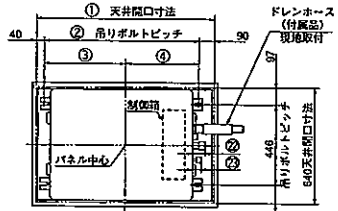
●吸込パネルをパネル本体から取りはずしてください。
●吸込パネルにビス止めされた天井材押え板（2個）をはずしてください。
●天井材を吸込パネルに取りつけ、天井材押え板にてガタつきのないように固定してください。
▶天井材は厚さ6～15mm、一辺300mm以上をお使いください。

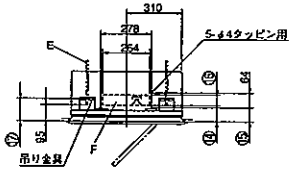
ハイパーインバークシリーズ	40、45	50～63	71～160
標準シリーズ	40～56	63～80	112～160
パネル	TW-PSA-22W	TW-PSA-32W	TW-PSA-42W
ラクリーナパネル	TW-PSL-29WY	TW-PSL-39WY	TW-PSL-49WY
天井材はめ込み	TW-PSB-29W	TW-PSB-38W	TW-PSB-48W
天井材寸法(mm)	300X970	300X1215	300X1685

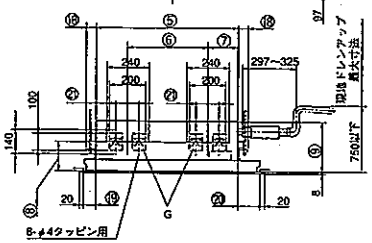


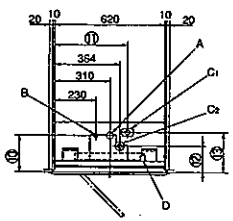
〈天井材押え板取付方向〉

記号	内	容
A	ガス配管接続口	
B	液配管接続口	
C1	ドレン配管接続口	VP-25
C2	ドレン自然排水口	VP-20
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10またはW3/8
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口 加湿器接続口	









ハイパーインバータシリーズ	40、45	50～63	71～160
標準シリーズ	40～56	63～80	112～160
①	1015	1250	1730
②	885	1130	1600
③	469	590	825
④	417	540	775
⑤	817	1054	1524

ハイパーインバータシリーズ	40、45	50～63	71～160
標準シリーズ	40～56	63～80	112～160
⑥	460	460	240
⑦	178	382	672
⑧	161	240	255
⑨	265	335	357
⑩	207	219	234
⑪	405	410	410
⑫	148	148	163
⑬	227	277	292
⑭	98	95	110
⑮	91	88	103
⑯	47	50	50
⑰	120	120	130
⑱	56	66	66
⑲	74	78	78
⑳	124	128	128
㉑	130	—	—
㉒	70	82.5	80.5
㉓	60	65	70

④冷媒配管

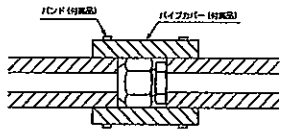
フレアナット締付トルク

φ 6.35： 14～ 18(N・m), (1.4～1.8kg・m)
φ 9.52： 34～ 42(N・m), (3.4～4.2kg・m)
φ12.7 ： 49～ 61(N・m), (4.9～6.1kg・m)
φ15.88： 68～ 82(N・m), (6.8～8.2kg・m)
φ19.05：100～120(N・m), (10～12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

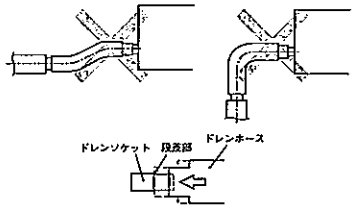
※液媒配管は断熱しないと結露し水漏れします。

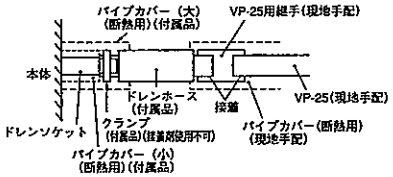
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

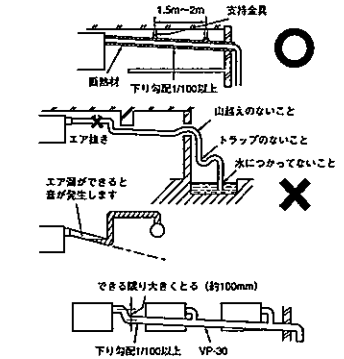


⑤ドレン配管

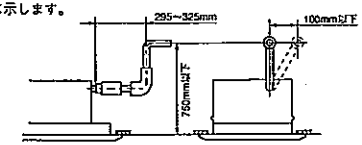
（ツイン機・トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。）





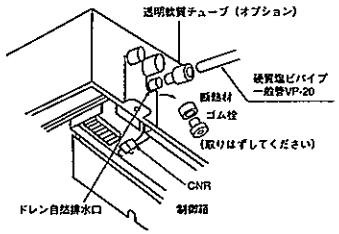


ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

ドレン自然排水口を使用の場合

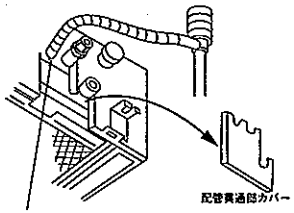


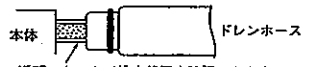
●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり引っぱって使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。
●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
●付属のドレンホース（軟質塩ビ製）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
〈接着剤使用不可〉
●ユニット吊下げ前にドレンホース（硬質塩ビ製）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25（現地手配）を接着・接続してください。
●接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合フレキ部が破損する恐れがあります。
●ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
●ドレン配管を接続する場合、ユニット側の配管に力を加えないように注意し、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
●複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
●結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
・ドレンソケット部
排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。
・室内にある硬質塩ビパイプ
●ドレン配管の出口高さは、天井面より75cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
●ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
●ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。
●自然排水用接続チューブ（オプション）を使用して、ドレン管（VP-20）を接続し、クランプで完全に締付けてください。
（※ドレン自然排水口にドレン管を直接接続すると、ドレンパンがはずれなくなります。）
●制御箱内にあるドレンモータ用コネクタCNRを取りはずしてください。
（※コネクタを接続したままで使用すると標準ドレン配管接続口よりドレン水が排出され、水漏れとなります。）

排水テスト

（標準ドレン排水口を使用の場合は、電気工事終了後に排水テストを実施してください。）

●試運転時に排水が確実に行われていることと、接続部及びユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。





透明ソケットで排水状況を確認できます

1.配管貫通部カバーを取り外し、左図の位置より給水ポンプなどを使用して約1000ccほど注入してください。
2.ドレン排水しているか排出口部（透明部分）でご確認ください。
3.排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

ドレンポンプ強制運転方法

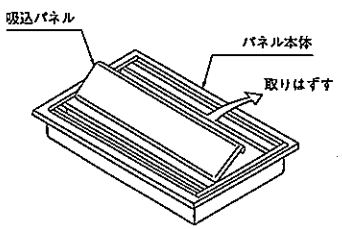
●ドレンポンプの運転がリモコン操作により可能です。
●運転操作方法は、裏面のⒻドレンポンプ運転操作をご覧ください。

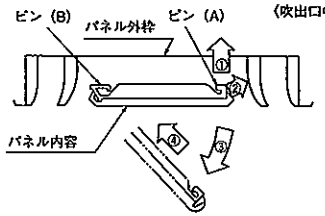
⑥パネル取付け

（パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

（※パネル吹出口部は爪を立てるとへこみやすいので取扱いには十分注意してください。）
1. 本体付属の型紙で本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
▶ 型紙はパネル取付前に取りはずしてください。
吹込パネルをパネル本体から取りはずしてください。（下図参照）
2. パネルに付属のボルト4本のうち、2本を本体側取付部に対角に5mm弱ねじ込みます。
3. 2本のボルトにパネルをひっかけ、仮止めをしてください。
4. 仮止めしたボルト及び残りのボルト（2本）を締めつけてください。
5. ルーバーモータ用コネクタとリミットスイッチ用コネクタをそれぞれ接続してください。（オートスイングなしは不要）
6. リモコン操作でルーバーモータが作動しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒間以上切り、リセットしてください。

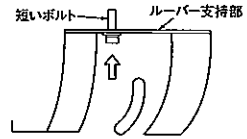
〈吸込パネル脱着方法〉





TW－PSA－42Wパネルの場合

1.長いボルト（35mm．4本）を用いて左記の1.～4.行程をおこなってください。
2. 短いボルト（15mm.2本）にて、左右吹出口中央のルーバー支持部（下図）を締めつけてください。
3. 左記の5.～6.行程をおこなってください。



〈吹出口中央部断面〉

EDITV

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警 告

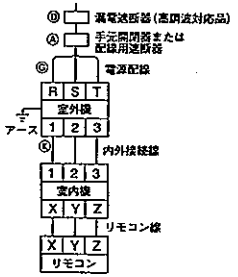
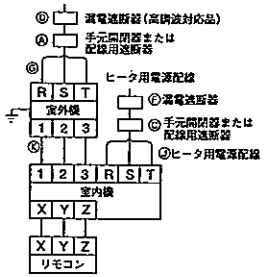
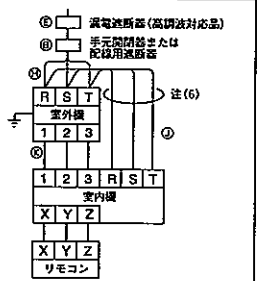
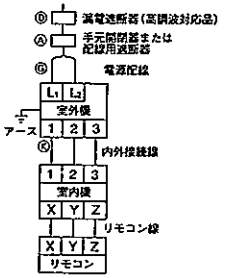
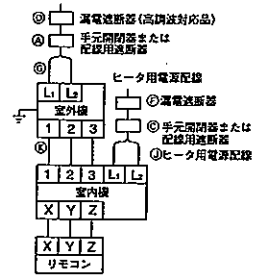
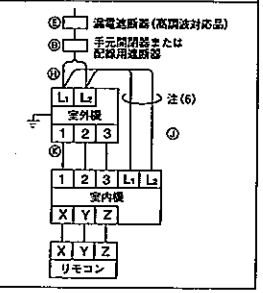
- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注 意

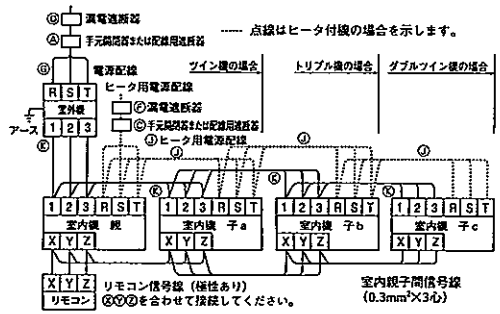
- ●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- ●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- ●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く）
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号同を接続してください。
③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

	ヒータレス（含む冷専）	ヒータ付（含むヒータ後付時） 標準的な接続方法	ヒータ付（含むヒータ後付時） ※ 例外的な接続方法
三相機			
単相機			

ツイン・トリプル機の結線



①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5-1,SW5-2により、子a～子cに設定してください。
④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機 親	子a	子b	子c
室内基板 アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

注 (1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)		
標準機・ヒータレス（含む冷専）	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	20m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	32m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P140-P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm²×3	23m	φ1.6×3	φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)		
ハイパーインバータ・ヒータレス	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×2	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		PV63-PV80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		PV112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		PV140-PV160		30A	30A	30A	5.5mm²×3	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5

〈シングル機：ヒータ付〉

注 (4)ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(5)配線こう長は、電圧降下2％とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(6)室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
標準機・ヒータ後付時	単相	P40～P56	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	φ2.0×2	16m	φ1.6×2	32m	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	25m	φ1.6×2	32m	φ1.6	M5
		P63			30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	23m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5
		P80	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	22m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	22m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5
		P140・P160			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm²×3	25m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータ後付時	三相	PV40・PV45	20A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	25m	φ1.6×2	32m	φ1.6	M5
		PV50・PV56			30A	20A	20A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	39m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5
		PV63	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	25m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5
		PV80			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	22m	φ1.6×3	27m	φ1.6	M5
		PV112～PV160	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm²×3	26m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5

〈ツイン・トリプル機：ヒータ付〉

注 (7) ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(8)配線太さⒿは20mまでの電圧降下(2%)を見込んであります。現地の配線が20mを越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
(9)室内機にヒータ装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

	室内機ヒータ合計容量（三相）	漏電しゃ断器	開閉器（A）	配線太さφmm又はmm² 注(8)
		Ⓕ	Ⓒ	Ⓙ
ヒータ付	4.3Kw以下	15A 30mA, 0.1秒以下	30	φ1.6
	5.0kw以下		30	φ2.0
	6.9kw以下	20A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0
	10.0kw以下	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5

室外形式	アース線	
	太さφmm又はmm²	ねじ
80	φ1.6	M5
112・140	φ2.0	M5
160	5.5	M6

Ⓑ リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付

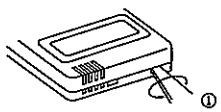
お願い　次の位置は避けてください。

1) 直射日光の当たる場所
2) 発熱器具の近く
3) 湿気の多い所・水の掛る所
4) 取付面に凸凹がある所

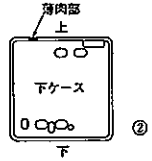
注意
リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。

取付要領

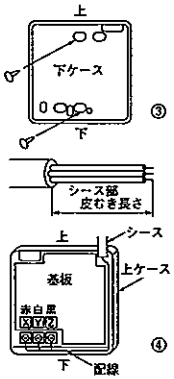
露出取付



①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。

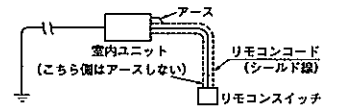


③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

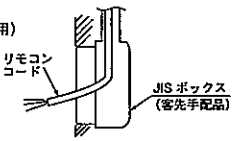
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



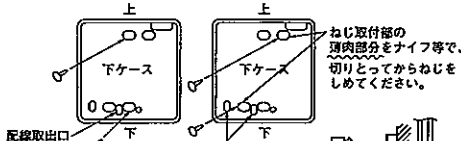
埋込取付

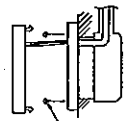
①JISボックスとリモコンコード
（延長の場合はシールド線を必ず使用）
をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336
1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス



1個用スイッチボックスの場合　2個用スイッチボックスの場合

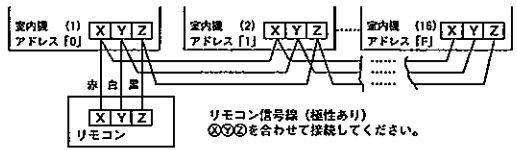




②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。

Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御

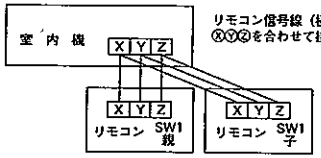
室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW1により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



③電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

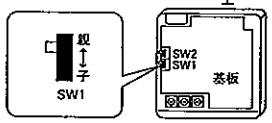
Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW 1	親	親リモコン
	子	子リモコン



Ⓔ 機能の設定

●本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表［○］印の項目に、自動的に設定されます。
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、グリル昇降有効設定や、［○］印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	ｸﾞﾘﾙ昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償禁無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ速調	ﾌｧﾝ3速	○
		ﾌｧﾝ2速	
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専/ﾋｰﾄﾎﾟﾝ	ﾋｰﾄﾎﾟﾝ	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
		表示しない	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可/禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正+3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	設定	○
		停止→設定	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ非運動	○
		ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ連動	

注1:［※］印の初期設定は、接続される室外機の機種（ヒーポン機／冷専機）により、自動判別されます。
注2:［(1)リモコン機能］の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、［(2)室内機能］の④ルーバ制御設定も変更してください。

Ⓕ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。
1．ドレンポンプ強制運転の開始
①［試運転］ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
②「冷房試運転▼」の表示の時に、［▼］ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
③［セット］ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示：「ドレンポンプ運転」→「セット」で停止」
2．ドレンポンプ運転の解除
④［セット］ボタン又は、［運転／停止］ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

Ⓖ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。
1．冷房試運転の開始
①［運転／停止］ボタンを押して、運転します。
②［運転切換］ボタンにより、「冷房」を選択します。
③［試運転］ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
④「冷房試運転▼」の表示で、［セット］ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。
2．冷房試運転の解除
［運転／停止］ボタン又は、温度設定［▽］［△］ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
①［点検］ボタンを押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
②「運転データ表示▼」の表示で、［セット］ボタンを押します。
③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
［▲］［▼］ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
④［セット］により確定します。
（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）
↓
「運転データ◆」と表示され、01番のデータが表示されます。
⑤［▲］［▼］ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
⑥室内機を変更する場合は、［エアコンNo.］ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
⑦［運転／停止］ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、［リセット］ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データ項目
01	運転ﾓｰﾄﾞ
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ﾌｧﾝ速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ﾄｰﾙ下温度
29	CT電流
31	室外ﾌｧﾝ速度
32	静音ﾓｰﾄﾞ有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	ﾃﾞﾌﾛｽﾄ ON/OFF
36	ｺﾝﾌﾟ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

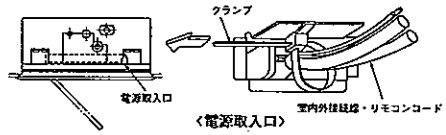
Ⓗ 制御の切換

(注)［ ］囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	遠方運転入力（CnT）をレベル入力	SW9-1	オートリフトパネルの降下長さの設定	
	開放	遠方運転入力（CnT）をパルス入力	SW9-2		
J-2	短絡	暖房サーモOFF時弱風	SW9-3	OFF	――
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風		ON	応急運転（基板上のコネクタCn8を同時に抜く）
J-3	短絡	通常運転	SW9-4	OFF	――
	開放	遠方運転入力（CnT）により運転制御		ON	高天井制御（ファン回転数アップ）
J-4	短絡	――			
	開放	暖房室温検知補正+3℃			

配線接続要領

1．電装品箱の蓋を開けてください。
2．室内外接続線・リモコンコードはすべて下図の電源取入口を貫通させてください。
3．各配線を端子台の決められた場所に接続してください。
4．配線接続後、配線は全てクランプで確実に固定してください。
●ツイン機の場合、渡り配線もクランプにて固定してください。



送風装置タップ切換

ハイパーインバータ：71～140
標準機：112～160

〈お願い〉
●50Hz地区でご使用の場合は、室内モータ用キャパシタのコネクタを50Hz側に差し替えてください。（コネクタは制御箱から離れた側のファン吸込口の横に有ります。）

出荷時（60Hzにセット）	50Hz地区の場合